

1 国家財政および地方財政

- (1) **国家財政** 企業収益等は持ち直しの動きがあるが、消費等の改善テンポは弱まる
 - 感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、企業収益や設備投資等は持ち直しの動きが継続
 - 個人消費や雇用情勢等に弱さがみられ、改善のテンポは弱まる
- (2) **国予算** 感染状況に応じて適切に対応したうえで、歳出改革の取組を強化
 - ・施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底的に排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化
- (3) **地方財政** 財源確保が不透明な中、社会保障経費等に多額の財源が必要
 - ・新型コロナウイルス感染症の影響により安定した財源確保が不透明な中、社会保障経費等に引き続き多額の財源を要することから、安定した財政運営が難しい状況

2 茨木市の財政

「今」と「将来」に対応した市民サービスの向上を図る政策事業を着実に推進していくには、多額の財源が必要となり、収支不足となる見込み

- (1) **令和4年度の見通し** 市税収入の回復を見込むものの、社会福祉経費等の経常経費の増により、収支不足となる見込み

[歳入] 新型コロナウイルス感染症の影響による経済活動の停滞や税制改正の影響等により、個人・法人市民税の動向が不透明な中、固定資産税の確保により市税収入の増収を見込む

[歳出] 高齢化の進展等に伴い社会福祉経費が引き続き増加する厳しい状況となることを見込むことに加えて、「今」と「将来」に対応した市民サービスの向上を図る政策事業を着実に推進していくには、多額の財源が必要となり、収支不足を見込む

- (2) **今後10年間の見通し** 何も手立てを講じない場合は、令和4年度から収支の均衡が崩れ出す厳しい状況

[歳入] 市税収入は緩やかな回復を見込むとともに、地方交付税や臨時財政対策債の財源保障により、増加する財政需要に必要な税等一般財源の総額が確保されるものと見込む

[歳出] 今後も扶助費をはじめとする社会福祉経費が増加していくことに加え、「今」と「将来」に対応する政策事業の実施に係る経費を見込む

3 予算編成にあたっての基本的な考え方

令和4年度は、「コロナ禍に負けない“次なる茨木”をさらに進める予算へ」に向け、

“次なる茨木”への『今』と『将来』への取組みとして

- ▶ コロナ禍や災害に負けない安全・安心のまちづくり
- ▶ 豊かさ・幸せを実感できるまちづくり
- ▶ まちづくりを支える『財政の健全性』の確保

の実現が図れる予算編成とする。

■実現に向けた取組み

- (1) 「今」と「将来」に対応した施策の推進と「財政の健全性」の確保
～「安全・安心」な市民生活の確保・「豊かさ・幸せ」を実感できるまちづくりの推進～

①『今』必要なサービスの充実

- ・新型コロナウイルスの対策を最優先に取り組むとともに、防災・防犯に係る取組みを推進
- ・保育環境の整備等の最重要課題をはじめ、「教育のまち茨木」の推進や、福祉施策の充実等、必要となる市民サービスの充実を図る

②『将来』を見据えたまちづくり

主要プロジェクト事業等は、事業効果の発揮やさらなるまちの魅力向上に取り組む

③『財政の健全性』の確保

行財政改革指針に沿ったさらなる取組みの実践等により、社会経済状況の急激な変化等にも柔軟に対応できる健全財政の確保に努める

- (2) **まちの持続的発展を果たすための取組の実施**

①柔軟な財政構造の保持(メリハリあるビルド&スクラップの実践)

ビルド(新規・拡充のソフト事業)に要する財源は、スクラップ(既存事業の見直し)により創出すること

《ビルド》市民サービスの向上を図る事業の着実な実施

DXやライフスタイル、社会構造の変化・ニーズを的確にとらえた効果的・効率的な事業の実施により、豊かさ・幸せを実感できる“次なる茨木”をさらに進める

- 1) Withコロナ・Afterコロナに対応した事業立案
- 2) 「次なる茨木DX。」につながる事業立案
- 3) “次なる茨木”をさらに進める事業
- 4) 実施計画における検討事業以外の対応事業

《スクラップ》事業の見直し等による健全な財政運営の推進

②将来への負担の抑制(ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制)

ハード事業の適切な選択により市債発行を抑え、残高を減らすことで将来の公債費負担を軽減し、今後の財政需要に対応できる財政構造を堅持する

- (3) **老朽化する公共施設等の長寿命化の推進**

「茨木市公共施設保全方針」に基づき、適切な保全と長寿命化を進めるため、財政計画で財源を確保し、緊急性や必要性の高い改修等を実施する

4 財政収支の見通し

(単位: 億円)

中長期財政見通し		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)	
A	①歳入	888	897	895	897	896	898	899	900	893	896	
	(1) 市税	466	470	473	479	482	480	483	485	482	483	
	(2) 譲与税・交付金	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	
	(3) 地方交付税	18	17	15	13	12	12	11	11	11	11	
	(4) 市債 (臨時財政対策債)	23	21	18	15	14	14	13	12	13	13	
	(5) その他	306	314	314	315	313	317	317	317	317	312	314
	②歳出	858	865	862	861	858	858	858	857	849	847	
	(1) 人件費	177	180	180	182	181	181	182	183	182	182	
	(2) 社会福祉経費 ※1	400	403	405	405	406	407	406	407	406	406	
	(3) 公債費	52	54	48	45	43	41	40	37	30	27	
(4) その他	229	228	229	229	228	229	230	230	231	232		
収支 (①-②)	30	32	33	36	38	40	41	43	44	49		

※1 扶助費+繰出金 (国保・後期・介護) + 後期高齢者療養給付費負担金

政策事業		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
B	④ハード事業	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	一般財源	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	⑤ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑥基金積立	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	⑦主要プロジェクト事業	118	81	16	14	4	1	1	1	1	24
	市債	55	44	10	8	1	0	0	0	0	12
	一般財源	2	3	3	4	2	1	1	1	1	4
	事業費 (④~⑦)	155	120	55	53	43	40	40	40	40	63
市債	62	51	17	15	8	7	7	7	7	19	
B 一般財源	17	20	20	21	19	18	18	18	18	21	

公共施設等の老朽化対策費		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
C	⑧事業費	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
	市債	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
C 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11

政策事業により経常化する経費		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
D	D ₁ ソフト事業の新規・拡充経費等	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22
	D ₂ 公債費	0	1	2	5	9	13	14	16	18	19
	D 政策事業の経常化分 合計	4	7	10	15	21	27	30	34	38	41

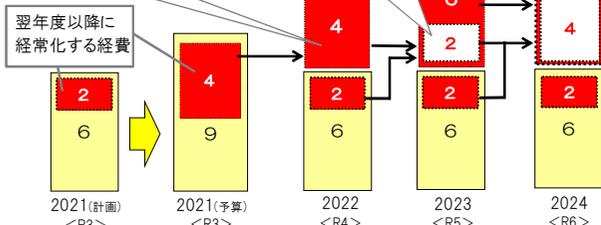
D₁ 市民サービスの充実を図るために実施するソフト事業の新規・拡充経費が、経常化し累積していくことを見込む

D₂ ハード事業や公共施設等の老朽化対策の財源として発行する市債の償還費が、翌年度以降に累積していくことを見込む

E 総収支 A-B-C-D		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
E	総収支 A-B-C-D	▲2	▲6	▲8	▲11	▲13	▲16	▲18	▲20	▲23	▲24

政策事業の実施により経常化する経費が累積

2021(R3)年度に実施した政策事業のうち、4億円が2022(R4)年度に累積!



【ソフト事業】
 翌年度以降に経常化する経費2億円を想定

◎政策事業の実施により、何も手立てを講じない場合、翌年度以降に経常化する経費が累積していく
 ⇒ 毎年必要なお金が雪だるま式に増えていく・・・

5 将来を見据えた取組み

(単位: 億円)

中長期財政見通し		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
E	総収支 (A-B-C-D)	▲2	▲6	▲8	▲11	▲13	▲16	▲18	▲20	▲23	▲24

取組みの実践

取組み I		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
F	経常経費の見直し (累積額)	▲1	▲4	▲7	▲10	▲12	▲14	▲16	▲18	▲20	▲22
	(2022(R4) ▲1.2億円 2023(R5) ~ ▲2~3億円)										

取組み II

F> ハード事業の適切な選択		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
F>	事業費 市負担	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2
	(2022(R4) ~ ▲9億円 ▲2億円)										
F>	起債抑制に伴う公債費の減	0	0	0	0	0	0	0	0	▲1	▲2
	(2030(R12) ~ ▲1~2億円 (参考: 起債抑制額) 2022(R4)以降各年度▲3億)										
F	取組効果 合計	▲3	▲6	▲9	▲12	▲14	▲16	▲18	▲20	▲23	▲26

※削減・抑制額を▲で示す

持続的発展を支える財政の健全性の確保に向けた取組み



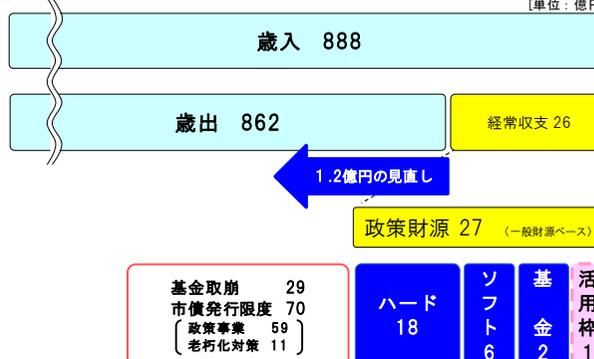
取組みの結果

中長期財政見通し		2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)	2031年度 (R13)
	最終収支 (E-F)	1	0	1	1	1	0	0	0	0	2

財政の健全性の確保に向けた取り組みの実践により収支不足を解消し、黒字を確保!

6 予算編成に向けての財源フレーム

(単位: 億円)



〈財源フレームの考え方〉

政策事業の財源については、経常収支の26億円に経常経費の見直し目標額1億円を加えることにより、27億円を確保する!

政策財源27億円の使途

- ・実施計画対象事業: 24億円
- ・基金積立: 2億円
- ・活用枠: 1億円